

「小川町の火災(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

12月21日の午前9時頃、カメラの画面に灰色の煙があがった。このあたりではまだ、河川敷などで焚火をする人も多いが、これは焚火の煙にしては大きい。



煙はたちまち上空に達し、色も黒っぽくなってきた。これは明らかに焚火の煙ではなく、火災による煙だ。



カメラを操作し、少し広角にしてみた。両親の住むマンションのすぐ下(セキ薬局)が燃えているのかと思っていたが、もっと遠い場所で出火したようだ。煙だけでなく、火災による炎もはっきり写っている。火災を起こした建物全体が低い煙で覆われているのもわかる。位置的に見て、マンション近くの県道沿いの民家が燃えていると推定された。幸い、この地域は小川消防署から車で5分程度の位置なので、すぐに消火活動が始まったようである。



あとから両親に聞いた話では、出火したのはこの建物だという。何と、母の高校時代の同級生が営んでいた服飾店だった。私は子どもの頃、何度もこのお店に遊びに行った思い出がある。幸い、母の友人は別の自宅にいて無事だったと聞いて、ほっとした。



出火と思われる時刻からわずか20分で、猛烈な煙になった。恐らく、中にあった布地や用品も激しく燃えたのだろう。



約1時間後には鎮火した。県道沿いの完全に孤立した建物だったこと、風が弱かったことが幸いし、延焼はなかったという。天体観測用のカメラが、まったくとんでもないものを記録してしまった。